

寝こんで

蝶泊らせる

外湯哉

小林一茶

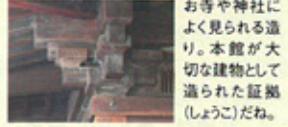
お宝発見!

「神の湯本館 洋小屋(トラス)」



西洋建築の技法を取り入れた小屋組。坂本又八郎(さかもとまたはちろう)の名前が書かれた当時の棟札(むなふだ)も残っています。

「又新殿 組物(くみもの)」



お寺や神社によく見られる造り。本館が大切な建物として造られた証拠(しょうこ)だね。

「神の湯 旧玄関」



昔の玄関をかざるみごとな彫刻(ちょうこく)。三つの入口それぞれに模様(もよう)が違います。

「軒を支える部分」



あまり人の目にふれない場所にも、美しい彫刻がほどこされているよ。

「又新殿 らんま」



大小の湯玉がいくつもくついた、ちょっと変わった湯玉模様。

「まわり縁(えん)」



休憩室には湯玉が彫られた手すりがズラリ。よく見てごらん。ぜんぶ模様が違うよ。

さあ、建物の中に入ってみよう。

今も昔も、ここは温泉天国。

浴場は神の湯(かみのゆ)と霊の湯(たまのゆ)の二種類。お風呂に入ってサッと帰ることもできれば、湯上がりに休憩室(きゅうけいしつ)や個室でのんびりできる4つの入浴コースがある。全国から訪れる観光客と、道後温泉を愛してきた地元の方々の両方に満足してもらうための工夫(くふう)が個性(こせい)や伝統(でんとう)となって、今も多くのお客さまに愛されています。

中は階段が多く
急だから、足元に気を
付けて歩いてね。



3F 坊っちゃんの間

明治28年に松山中学校の英語教師だった、夏目漱石(なつめそうせき)ゆかりの部屋です。



3F 霊の湯三階個室

階段を上ると、心からやすらげる純和風の個室が8部屋。ぜひくな気分にひたれよう。



2F 神の湯二階席

55畳(じょう)もある大広間。約100人もの人が一度に利用することができます。かごに入った湯玉(ゆだま)もようのゆかたに替えて、さあ神の湯へ。

入浴ガイド

神の湯

改札口から脱衣室へ
神の湯階下

神の湯に入るだけのおてごろなコース
大人410円 小人160円[1時間以内]
6時~23時(22時30分で札止め)

改札口奥から階段を敷物の赤色に沿って
霊の湯二階席

神の湯と二階休憩室を利用するコース
大人840円 小人420円[1時間以内]
6時~22時(21時で札止め)

改札口奥から階段を敷物の青色に沿って
神の湯二階席

神の湯と二階休憩室を利用するコース
大人840円 小人420円[1時間以内]
6時~22時(21時で札止め)

改札口奥から階段を敷物の黄色に沿って
霊の湯三階個室

霊の湯と三階の個室を利用するデラックスコース
大人1,550円 小人770円[1時間20分以内]
6時~22時(20時40分で札止め)

改札口奥から階段を敷物の青色に沿って
又新殿(ゆうしんでん)観覧料

皇室専用の浴室
大人260円 小人130円[案内時間内]
6時~21時30分(21時で札止め)

●迷子(まいご)にならないように敷物(しきもの)の色を見て歩こう。

階段を上ると、敷物は利用コースごとに色分けされています。「神の湯二階席コース」は青色、「霊の湯二階席コース」は赤色、そして「霊の湯三階個室コース」は黄色。それでも迷ったら制服を着た職員(しゃくいん)に聞こう。

休憩室でのお接待(せったい)は、本館ができた当時から続いている。砥部(とべ)焼きの湯のみも輪島塗(わじまぬり)の天目台(てんもくだい)も、昔から使われてきたもの。百年前の人と同じ場所で同じように過ごすなんて、ちょっと感動。



振鶯閣(しんろかく)
1日3回、太鼓(たいこ)をたたいて、道後のまちに時を知らせます。



2F 展示室
道後温泉の歴史を語る、たいせつなお宝がいっぱい。



2F 霊の湯二階席
日本建築(けんちく)の技を集めてつくった皇室専用(こうしつせんよう)の浴室。



1F 廊下
すべてのお客さまが通る廊下、突き当たりにはおもしろい鏡があるよ。



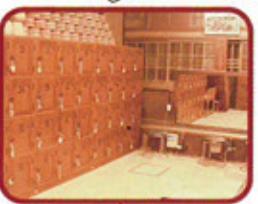
1F 脱衣室

女子の脱衣室は西と東の2カ所。どちらでも自由に使えます。



改札口

札場で買った入浴券をここで渡します。脱衣室(だついしつ)や休憩室の行き方など、わからないことは気軽に聞いてね。



神の湯 男子脱衣室

神の湯 女子東脱衣室

感想をメモしよう。俳句もいいよ。



では、自慢の温泉を見てみよう。

ひろびろとした「神の湯」とちょっとこぶりの「霊の湯」。道後温泉本館には、2種類5つの浴室があります。男女のうちわけは男湯が3つ、女湯が2つ。「神の湯」のお客さまは地元の常連(じょうれん)さんたちが多く、「霊の湯」では観光客が天下の名湯を楽しんでいます。壁画(へきが)や湯釜(ゆがま)など、それぞれの浴室とも見どころがいっぱい。

銭湯(せんとう)感覚でざぶり

神の湯(かみのゆ)

ひろくて明るい浴室。男湯は2つありますが、壁側に浴そうのある造りはほぼ同じ。そのときの気分や空きぐあいで、好きなほうを選べます。女湯は、真ん中に浴そうの広がるゆったりとした造りです。



神の湯 男子西浴室



神の湯 男子東浴室

プライベート感覚でゆったり

霊の湯(たまのゆ)

神の湯に比べると小さいけれど、浴そうに庵治石(あじいし)や大島石(おおしまいし)、壁には大理石(だいりせき)を使うなど、つくりはぜいたく。静かに道後の湯を楽しみたい人におすすめです。



霊の湯 男子浴室



霊の湯 女子浴室

まじりつけなしの
新鮮なお湯を
どうぞ。

道後温泉の源泉(げんせん)は、ただいま17カ所。湯温は20°C~55°Cといろいろですが、一ヵ所に集められて、浴槽で約43°Cになるように調節(ちょうせつ)されています。循環(じゅんかん)式ではなく、常に新しいお湯を出している「掛け流し式」なので、お湯はいつも新鮮です。

入浴マナーを守ろう

浴そうはみんなの入る所です。一人ひとりがマナーを守って、みんなが気持ち良く入浴するために次のことを守りましょう。



①かけ湯をしてから
浴そうに入りましょう

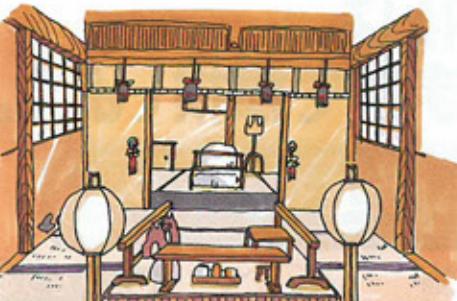
②浴そうの中で体を洗ったり、
タオルなどを使用しないように
しましょう。

③シャワーなどは
譲り合って使用しましょう。

日本でここだけ、皇室専用の優美(ゆうび)な浴室

又新殿(ゆうしんでん)

皇室の方が道後に来られた際、温泉にお入りいただきために造ったもので、明治32年に完成。すみからすみまで優雅(ゆうが)な造りで、手前から奥へ「前室(ぜんしつ)」「御居間(おいま)」「玉座の間(ぎょくざのま)」と続き、その横には警護(けいご)の人がひかえる「武者隠しの間(むしゃかくしのま)」もあります。



一階にある浴そう。御影石(みかげいし)の中でも最上とされる香川県産の庵治石(あじいし)です。



伝・御居間(おいま)のふすま絵は、
「玉座の間(ぎょくざのま)」の天井は桐(きり)
りの三枚重ねで檜(ひのき)で
も通さない。



奥の「玉座の間」は天皇陛下(てんのうへいか)だけがお使いになられた部屋です。

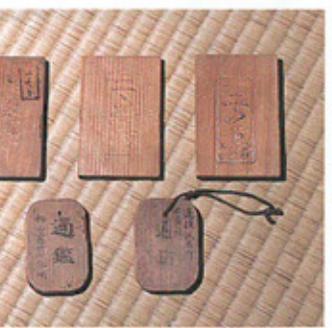
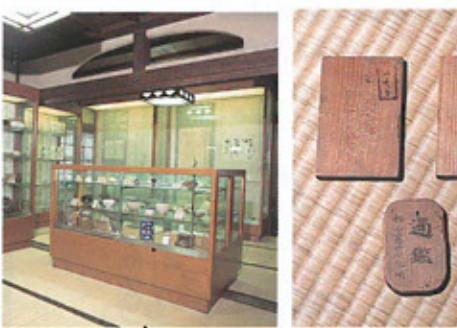
道後温泉と本館の歴史を分かりやすく紹介

展示室(てんじしつ)

のんびり温泉を楽しんだあとは、二階にある「展示室」で道後の湯と本館の歴史にふれてみよう。昔の湯札(ゆふだ)や茶道具、有名人の名前が記された来訪帳(らいほうちょう)など、道後温泉の歴史を語る貴重品が並んでいます。



3千年といわれる道後温泉の歴史を描いた日本画。左が玉の石神話、右がシラサギ伝説



明治時代に使われた木の湯札。いまの入浴券に当たるものです。

温泉歴史学

●日本最古の温泉ってどういうこと?

道後温泉は有馬温泉、白浜温泉と共に「日本三古湯(ほんさんごとう)」と呼ばれ、日本書紀や万葉集、源氏物語などの古い書物にも登場しています。また、道後温泉の周辺からは約3,000年前の人々が生活した様子がわかる土器などが発掘されており、国内外でも有数の歴史を持っていることから「日本最古」と呼ばれています。

●道後温泉のお湯は、 お肌すべすべ「美人の湯」。

道後温泉の泉質は、アルカリ性単純温泉といって、日本人の肌に合うなめらかなお湯。古くから美容や湯治に効果がある天下の名湯として親しまれてきました。湯上がりはお肌すべすべ、体の芯までほっかほかです。

●あの聖徳太子も道後温泉の大ファンだった!?

飛鳥時代のヒーロー・聖徳太子がこの地を訪れたのは今から約1400年前。太子は、椿の木に囲まれた温泉のたたずまいや周囲の風景に感激され、温泉の碑を建てたと伝えられています。